

山口市芸術家育成支援事業

第7回やまぐち新進アーティスト大賞

第7回やまぐち新進アーティスト大賞受賞者

木工作家 たけべ 竹部 とくま 徳真

応募アーティスト数：14名

最終選考ノミネート者：6名

かしわ よしはる
柏 良治 (39)

たぐち じゅん
田口 潤 (45)

TAKESHI (51)

はらだ かずあき
原田 和明 (40)

木工作家 たけべ 竹部 とくま 徳真 (27)

やまぐち いさお
山口 功 (32)

(50音順・敬称略、年齢基準日：審査日)

(総 評)

大賞審査も7回を迎えた。これまでも、若き受賞者の新作発表会等で新作に接する都度、選考のときの緊張感とは異質の感動を覚えたものである。

今年度の審査も、応募者14名の作品をじっくりと拝見した後、投票により、上位6名をノミネートした。大賞については、原田和明氏と竹部徳真氏にしばらくこまれ、協議が重ねられ、最終的には挙手により竹部氏が選出された。

山口の素材を生かした作品をもって、内外での活躍が今後期待されるとの評価であった。

(第7回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員長 足立明男)

(やまぐち新進アーティスト大賞選評)

古材の一木を刳ったランプシェード。これらごく薄手にこしらえた技術の巧みさに私たちはまず感心し、また透過光に浮かび上がる木目の陰翳にしばし幻想的な気分にも浸ることもできる。しかしこの仕事の妙味は、朽ちかけた木質も露わな枯淡な風趣と簡潔なモダンな外観という、落差ある造形感覚の同居にある。言い換えると野太い民芸的美意識と洗練をめざすインダストリアルデザイン理念の摩擦である。この二つはいずれも近代に形成された造形思考だが互いに遠ざかっていた。その総合をめざした意欲的な試みだろう。情緒に流されず、古材の美質を再構成していく造形性の展開を大いに期待する。

(第7回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員 石崎泰之)

・・・第7回やまぐち新進アーティスト大賞審査委員会審査委員・・・

足立 明男 (山口情報芸術センター館長)

井生 文隆 (山口県立大学教授)

石崎 泰之 (山口県立萩美術館・浦上記念館学芸専門監)

兼原 啓二 (山口短期大学教授)

斎藤 郁夫 (山口県立美術館副館長)

(50 音順・敬称略)

「第7回やまぐち新進アーティスト大賞」

受賞者（アーティスト名）：

木工作家 ^{たけべ} 竹部 ^{とくま} 徳真



PROFILE

1987 年兵庫県姫路市生まれ

2010 年山口県立大学環境デザイン学科卒業

2011 年第6回全国『木のクラフトコンペ』入選（神奈川）

2012 年山口県立大学大学院修了

宮野の工房を活動の拠点とし、

Japanin vari 日本の“いろ”展(Finland Helsinki)(2010)、

循環型国産自然素材プロジェクト展（東京）(2012)、

現在は、東京や大阪等の百貨店における展覧会に参加するなど、国内外で活動している。

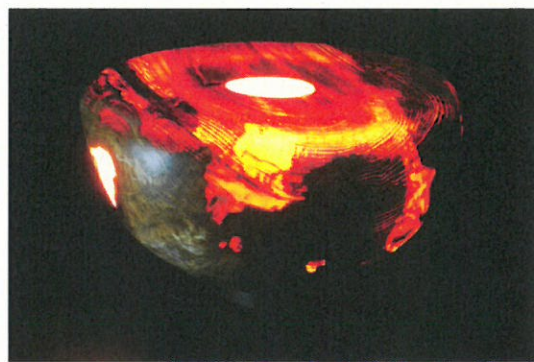
受賞コメント

この度は、新進アーティスト大賞を頂きまして、誠にありがとうございます。山口で活動する作家として大変光栄に存じます。素材のもつ良さを引き立て、わび、さび、それに”華美”を加えた作品を生み出していきたいと考えています。今後は、“世界に通用する made in JAPAN”を目指し、世界に向けた作品の発表を予定しています。今回の賞を受けましたことを胸に、山口における芸術の発展に少しでも貢献していきたいと思っておりますので、どうぞ応援よろしくお願いいたします。

（やまぐち新進アーティスト大賞審査対象作品）



こぼれび みやく
「零れ日 - 脈うつカタチ - 」



こぼれび しんびょう
「零れ日 - 心描 - 」



ながだいいっせんすいつきざん
「長台一線吸付き棧」